



# **UR22 MK3**

# **UR12 MK3**

**USB AUDIO INTERFACE**

# 目次

主な特長.....	2
ご使用の前に.....	3
取扱説明書の種類.....	3
取扱説明書の表記.....	3
使用上のご注意 .....	3
お知らせ .....	3
各部の名称と機能 .....	5
フロントパネル .....	5
リアパネル.....	7
ソフトウェア .....	8
Yamaha Steinberg USB Driver.....	8
コンピューターで使う .....	10
接続例 .....	10
コンピューターの設定.....	11
DAW を使って音楽制作を行う .....	12
ライブ配信を行う.....	14
iPhone/iPad で使う.....	16
接続例 .....	16
DAW を使って音楽制作を行う .....	17
ライブ配信を行う.....	18
困ったときは.....	19
ブロック図.....	21
Software License and Copyrights .....	23
技術仕様.....	24
一般仕様.....	26

# 主な特長

## USB Type-C™ Audio Interface with 24-bit/192 kHz support

URMK3 シリーズは、音楽制作でのニーズを中心に開発されたオーディオインターフェースからさらに一歩進んで音楽配信にも対応し、オンラインを中心に展開する音楽活動を力強くサポートするシリーズです。

## 刷新されたオーディオ入出力

音楽制作で重要な基本機能であるマイクプリアンプ回路の設計と ADDA を見直し、ダイナミックレンジを広げるとともにオーディオ性能全体を向上させました。また、快適なレコーディングをするためにヘッドホンの出力レベルを見直し、クリックモニターをする同期演奏やバンドの同時録音時のモニター環境を考慮した設計をしています。

## リアルタイム配信にマッチする機能搭載

配信に役立つ機能として、コンピューターからの音を配信するために必要なループバック機能のほか、入力しているマイクの音を簡単にミュートできるスイッチを搭載するなど、リアルタイム配信に便利な機能を用意しています。

## コンパクトな筐体と2色展開

限られた制作スペースでも快適に使える、コンパクトな外観を実現しました。また、カラーバリエーションとしてブラックとホワイトの2種類を用意し、好みに合わせて選択できます。

# ご使用の前に

## 取扱説明書の種類

UR22MK3、UR12MK3 の取扱説明書は、以下の 2 種類で構成されています。

### ■UR22MK3 UR12MK3 セットアップガイド

UR22MK3、UR12MK3 を安全にお使いいただくための注意事項や電源に関する情報、製品の仕様、製品サポートに関する情報を説明しています。本製品を使うすべてのクリエイターが対象です。

### ■UR22MK3 UR12MK3 ユーザーガイド (本書)

UR22MK3、UR12MK3 の機能や使い方について説明しています。音楽制作や配信について基礎的な知識をお持ちの方が対象です。

## 取扱説明書の表記

### ■Windows と Mac

手順や説明で、Windows と Mac で操作が異なる場合や、どちらかの OS だけで使える機能の場合は、OS の名称を記載しています。OS の記載がない場合は、両 OS で共通です。説明のための画像は、Windows 版を使っています。ただし、Mac 版だけの機能を説明するための画像は、Mac 版を使っています。

### ■Cubase シリーズ

本取扱説明書の「Cubase シリーズ」とは、Cubase のすべてのグレードを指します (Cubase LE は除く)。特定のグレードを指すときは、そのグレードを記載しています。説明のための画像は、Cubase 12 シリーズを使っています。ほかのバージョンの Cubase を使っている場合、画像が異なることがあります。詳細は Cubase の取扱説明書をご参照ください。

### ■Cubasis シリーズ

説明のための画像は、Cubasis 3 を使っています。ほかのバージョンの Cubasis を使っている場合、画像が異なることがあります。

### ■手順

手順の一部は、「→」を使って簡潔に記載しています。たとえば、[スタジオ] → [スタジオ設定...] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] → [コントロールパネル] と記しているときは、以下のように操作します。

1. [スタジオ] メニューをクリックします。
2. [スタジオ設定...] オプションを選択します。
3. [Yamaha Steinberg USB ASIO] を選択します。
4. [コントロールパネル] をクリックします。

### ■バージョン情報

x.x.x と x.xx はバージョンを示します。

## 使用上のご注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

### ■製品の取り扱い / お手入れに関するご注意

- 本製品の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かないでください。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しないでください。内部に水などの液体が入ると、故障の原因になります。
- テレビやラジオなど、他の電気製品の近くで使用しないでください。本製品、または他の電気製品に雑音が生じる原因になります。
- 極端に温度の高いところや低いところ、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本製品のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 温度変化が激しい場所に設置しないでください。製品内部や表面に結露が発生し、故障したりする原因になります。
- 結露が発生しているおそれがあるときは、しばらく放置してから電源を入れてください。結露した状態で電源が入ると、故障の原因になります。

## お知らせ

### ■データの著作権に関するお知らせ

- 取扱説明書の著作権はヤマハが所有します。
- ソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- 本製品に同梱されている「コンテンツ」<sup>\*1</sup> の著作権は、Steinberg、ヤマハ、もしくはその著作権者に帰属します。私的使用のための複製など著作権法上認められている場合を除き、権利者に無断で「複製または転用」<sup>\*2</sup> することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

なお、製品本来の使用を通して、上記コンテンツを使用した音楽制作や演奏を行い、それらを録音して配布する場合、配布方法が有償、無償を問わず著作権者の許諾は必要ありません。

\*1: 「コンテンツ」には、コンピュータープログラム、サウンドデータ、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。

\*2: 「複製または転用」には、この製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出すこと、もしくは酷似した形態で記録 / 録音して配布することを含みます。

### ■著作権法保護について

- 本製品を国や地域の法律が定める著作権をはじめとする第三者の権利を侵害する用途で使用しないでください。
- あなたが本製品を使用して第三者の権利を侵害しても、弊社は一切責任を負いません。

### ■製品の機能 / データに関するお知らせ

本製品は、クラス B 機器です。本製品は、住宅環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。セットアップガイドに従って正しい取り扱いをしてください。(VCCI-B)

### ■取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- ソフトウェアまたは取扱説明書を使用した結果と影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- Steinberg、Cubase、Cubasis は、Steinberg Media Technologies GmbH の登録商標です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac、iPad、iPhone、iPadOS、App Store、Lightning は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- 日本では、iPhone は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されている商標です。
- IOS は、米国およびその他の国における Cisco 社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- USB Type-C™ および USB-C™ は USB Implementers Forum の商標です。
- ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。

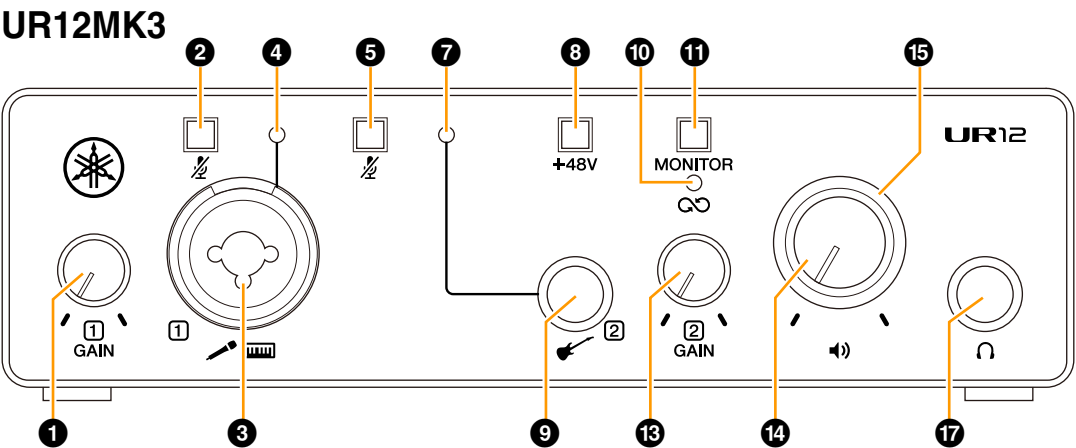
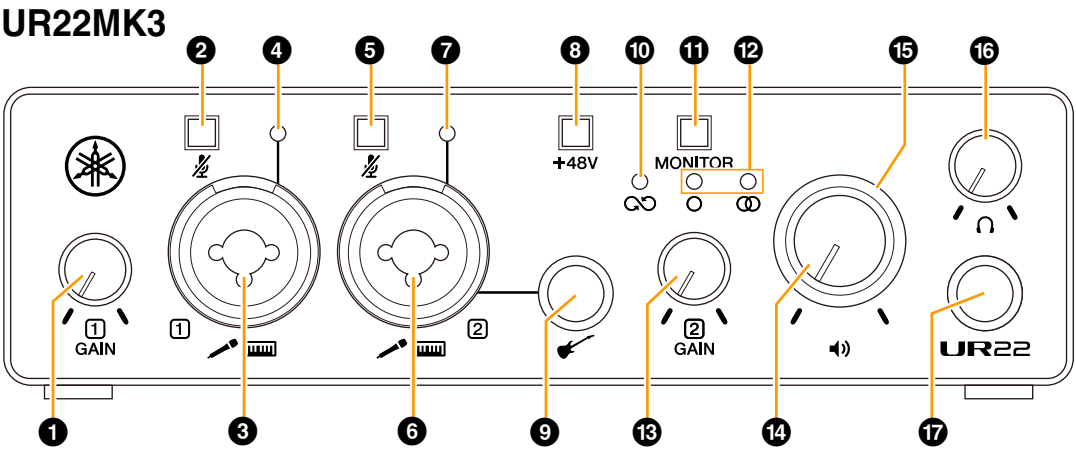
### ■廃棄に関するお知らせ

本製品は、リサイクル可能な部品を含んでいます。廃棄される際には、廃棄する地方自治体にお問い合わせください。

データが破損したり失われた場合の補償や、不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

# 各部の名称と機能

## フロントパネル



**① [INPUT 1 <sup>インプット</sup> GAIN] ノブ**  
[MIC/LINE 1] 入力端子の入力信号レベル (GAIN) を調節します。

**② [INPUT 1 <sup>ミュート</sup> (ミュート) ] スイッチ**  
[MIC/LINE 1] 入力端子の入力信号をミュートします。  
ミュート中はスイッチが点灯します。

**③ [MIC/LINE 1] <sup>マイク</sup> <sup>ライン</sup> 入力端子**  
マイク、電子楽器などを接続します。この端子には、XLRタイプとフォーンタイプ (バランス / アンバランス) のプラグを接続します。

**NOTE**  
ファンタム電源は XLR タイプにのみ供給されます。

**④ [INPUT 1 SIG/PEAK] インジケーター**  
[MIC/LINE 1] 入力端子の入力信号レベルを表示します。  
普通の音量で緑点灯に、一番大きな音で一瞬赤点灯になるように、入力信号レベルを調節します。


ランプの色	説明
赤	-3 dBFS 以上
緑	-20 dBFS 以上～-3 dBFS 未満
消灯	-20 dBFS 未満

**⑤ [INPUT 2 <sup>ミュート</sup> (ミュート) ] スイッチ**  
UR22MK3: [MIC/LINE 2] 入力端子またはギター [ ] 入力端子の入力信号をミュートします。  
UR12MK3: ギター [ ] 入力端子の入力信号をミュートします。  
ミュート中はスイッチが点灯します。


## ⑥ <sup>マイク</sup> <sup>ライン</sup> [MIC/LINE 2] 入力端子 (UR22MK3 のみ)


マイク、電子楽器などを接続します。この端子には、XLR タイプとフォーンタイプ(バランス / アンバランス) のプラグを接続します。

### NOTE

- ファンタム電源は XLR タイプにのみ供給されます。
- ギター [  ] 入力端子にケーブルが接続されているとき、[MIC/LINE 2] 入力端子の入力信号はキャンセルされます。

## ⑦ [INPUT 2 SIG/PEAK] インジケーター

UR22MK3: [MIC/LINE 2] 入力端子またはギター [  ] 入力端子の入力信号レベルを表示します。

UR12MK3: ギター [  ] 入力端子の入力信号レベルを表示します。

その他は、④ [INPUT 1 SIG/PEAK] インジケーターと同じです。

## ⑧ [+48V] スイッチ

ファンタム電源(+48V) をオン / オフします。このスイッチをオンにすると、[MIC/LINE 1, 2] 入力の XLR 端子にファンタム電源を供給します。コンデンサーマイクを使用するときは、このスイッチをオンにします。

ファンタム電源供給時はスイッチが点灯します。

### ご注意


ファンタム電源を使用する場合、本体 / 外部機器の故障やノイズを防ぐために、以下の内容にご注意ください。

- ファンタム電源のスイッチをオンにしたまま、ケーブルの抜き差しをしない。
- ファンタム電源のオン / オフは、PHONES レベルノブ、OUTPUT レベルノブを最小にした状態で行う。
- [MIC/LINE 1, 2] 端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ファンタム電源のスイッチをオフにする。

## ⑨ ギター [ ] 入力端子

エレキギターやエレキベースなど、出力インピーダンスが高い楽器を接続します。フォーンタイプのアンバランスケーブルで接続します。

### NOTE

UR22MK3 の場合、ギター [  ] 入力端子にケーブルが接続されているとき、[MIC/LINE 2] 入力端子の入力信号はキャンセルされます。

## ⑩ ループバック [ ] インジケーター

本体のループバック機能がオンのときに点灯します。

## ⑪ <sup>モニター</sup> [MONITOR] スイッチ

ループバック機能とダイレクトモニター機能をオン / オフします。ダイレクトモニター機能がオンのとき、このスイッチが点灯します。このスイッチを押すたびに、ループバック機能とダイレクトモニター機能のオン / オフの状態が順次切り替わります。


UR22MK3 の場合はダイレクトモニターの MONO / STEREO の切り替えも行います。1秒以上押し続けると、ダイレクトモニター機能の設定を変えずにループバック機能をオン / オフします。

## HINT






### ループバック機能とは

インターネットの映像配信などに便利な機能です。本体の入力端子に入力されているオーディオ信号(ギター、マイクなど)と、コンピューター内で使用中のソフトウェアから再生されているオーディオ信号を本体内でミックスし、コンピューターに戻します。具体的な信号経路は、ブロック図(21 ページ) をご参照ください。


### ダイレクトモニター機能とは


本体の入力端子に入力されているオーディオ信号(ギター、マイクなど) をコンピューターや iOS/iPadOS 機器のアプリを経由せずに、[LINE OUT L/R] 端子や PHONES [  ] 端子に出力します。

## ⑫ <sup>モノ</sup> MONO [ ]、<sup>ステレオ</sup> STEREO [ ] インジケーター (UR22MK3 のみ)

INPUT 1, 2 が両方とも [LINE OUT L/R] 端子や PHONES [  ] 端子の L, R チャンネル両方に出力されているときは、MONO [  ] インジケーターが点灯します。INPUT 1 が L チャンネルのみに、INPUT 2 が R チャンネルのみに出力されているときは、STEREO [  ] インジケーターが点灯します。INPUT 1, 2 を個別の入力チャンネルとして扱う場合は MONO [  ] に、ステレオ入力として扱う場合は STEREO [  ] に、[MONITOR] スイッチを操作して設定してください。

## ⑬ <sup>インプット</sup> <sup>ゲイン</sup> [INPUT 2 GAIN] ノブ

UR22MK3: [MIC/LINE 2] 入力端子またはギター [  ] 入力端子の入力信号レベル(GAIN) を調節します。

UR12MK3: ギター [  ] 入力端子の入力信号レベル (GAIN) を調節します。

## ⑭ <sup>アウトプット</sup> OUTPUT レベル [ ] ノブ

[LINE OUT L/R] 端子の出力信号レベルを調節します。

UR12MK3 では、PHONES [  ] 端子の出力信号レベルも同時に変化します。

## ⑮ 電源インジケーター

電源がオンのときに点灯します。電源電圧が低下している場合は点滅します。

## ⑯ <sup>フォーンズ</sup> PHONES [ ] レベルノブ (UR22MK3 のみ)

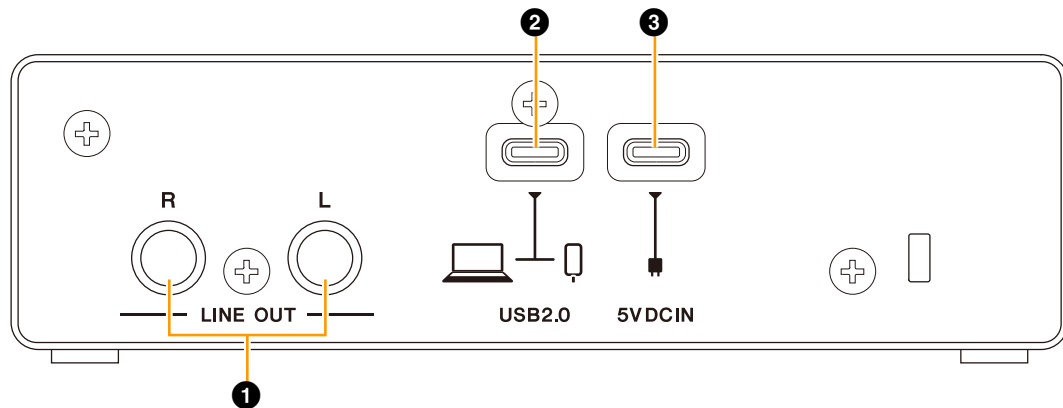
ヘッドホンの出力信号レベルを調節します。

## ⑰ PHONES [ ] 端子

ヘッドホンを接続します。



## リアパネル



### ① [ライン アウト LINE OUT L/R] 端子

外部機器やモニタースピーカーなどを接続します。フォーンタイプ（バランス / アンバランス）のプラグを接続します。出力レベルは、本体フロントパネルの OUTPUT レベル [ ] ノブで調節可能です。

### ② [USB 2.0] 端子

コンピューターまたは iOS/iPadOS 機器を接続します。

#### ご注意

[USB 2.0] 端子でコンピューターと接続するときは、コンピューターや本体の停止（ハングアップ）によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。

- USB ケーブルで本体とコンピューターを接続する前に、コンピューターの省電力（サスペンド / スリープ / スタンバイ / 休止）モードを解除してください。
- USB ケーブルの抜き差しをする前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。
- USB ケーブルを [USB 2.0] 端子から抜き差しする前に、スピーカー出力ノブの出力を最小にしてください。
- USB ケーブルの抜き差しは、6 秒以上間隔を空けて行ってください。

#### NOTE

- iOS/iPadOS 機器と本体の接続には、Apple 社のアクセサリが必要な場合があります。
- iPhone/iPad 付属の USB-C - Lightning ケーブルは使用できません。
- Lightning 端子を持った iPhone/iPad との接続には、Apple 社製 Lightning-USB3 カメラアダプタが必要です。

### ③ [5V DC IN] 端子

USB 電源アダプターや USB モバイルバッテリーなどを接続します。この端子には USB Type-C プラグを接続します。

iOS/iPadOS 機器や、十分なバスパワーが供給できないコンピューターと接続する場合に使います（本製品には、USB 電源アダプターや USB モバイルバッテリーは付属しません）。

#### ご注意

- お使いになる USB 電源アダプターや USB モバイルバッテリーの安全上のご注意をお読みください。
- USB 電源アダプターや USB モバイルバッテリーは、端子が USB Type-C プラグで、以下の規格に適合した電源供給ができるものをお使いください。

出力電圧 DC 5V

出力電流 0.5 A 以上

# ソフトウェア

ここでは、コンピュータで使用する Yamaha Steinberg USB Driver について説明します。

## Yamaha Steinberg USB Driver

本体とコンピュータの間でデータをやりとりするためのソフトウェアです。コントロールパネルで、オーディオドライバーの基本設定や切り替え (Windows) やオーディオドライバー情報の確認 (Mac) ができます。

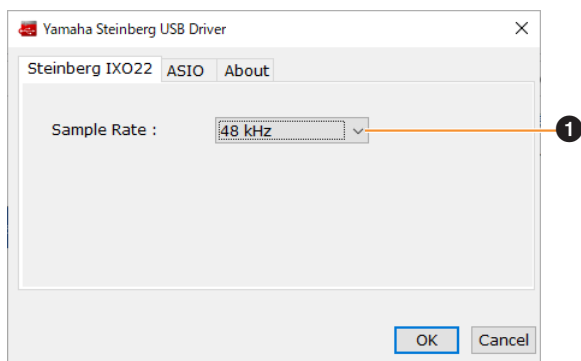
### ■ Windows

#### 画面の開き方

- スタートメニューから、[Yamaha Steinberg USB Control Panel]
- Cubase シリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定 ...] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] → [コントロールパネル]

#### 画面の切り替え方

画面上部のタブをクリックすると、画面が切り替わります。



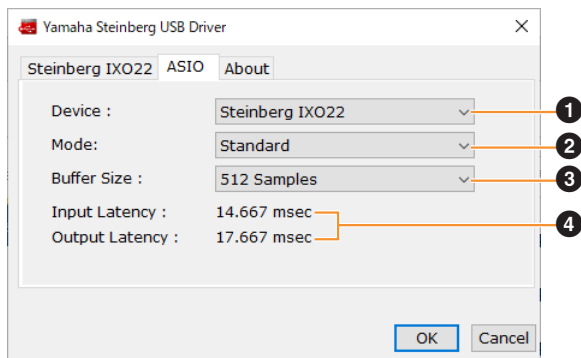
#### ① Sample Rate

本体のサンプリング周波数を切り替えます。

選択肢：44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz

#### ASIO 画面

ASIO ドライバーの設定を切り替えます。



#### ① Device

ASIO ドライバーで使う機器を切り替えます (コンピュータに Yamaha Steinberg USB Driver 対応機器が 2 台以上つながっているときに有効です)。

#### ② Mode

レイテンシーのモードを選びます。

選択肢	説明
Low Latency	レイテンシーが小さいモードです。高性能なコンピュータが必要です。
Standard	標準的なレイテンシーモードです。
Stable	レイテンシーが大きいモードです。性能が低いコンピュータや、負荷が高いプロジェクトで安全性が高くなります。

#### ③ Buffer Size

ASIO ドライバーのバッファサイズを切り替えます。サンプリング周波数の値で、バッファサイズの設定範囲が変わります。バッファサイズの設定で、レイテンシーの値が変わります。バッファサイズの値を小さくするほど、レイテンシーの値が小さくなります。

サンプリング周波数	設定範囲
44.1 kHz/48 kHz	32 Samples ~ 2048 Samples
88.2 kHz/96 kHz	64 Samples ~ 4096 Samples
176.4 kHz/192 kHz	128 Samples ~ 8192 Samples

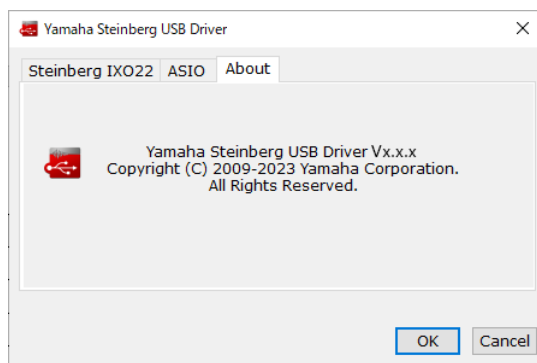
#### ④ Input Latency/Output Latency

オーディオ入出力信号のレイテンシー (遅延時間) をミリ秒単位で表示します。レイテンシーの値は、バッファサイズによって変わります。バッファサイズの値を小さくするほど、レイテンシーの値が小さくなります。



## About 画面

オーディオドライバのバージョンと著作権情報を表示します。



## ■ Mac

### 画面の開き方

- [アプリケーション] → [Yamaha Steinberg USB Control Panel]
- Cubase シリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定 ...] → [Steinberg IXO\*\* DAW] → [コントロールパネル] → [Open Config App]

\*\* には 22 または 12 が入ります。

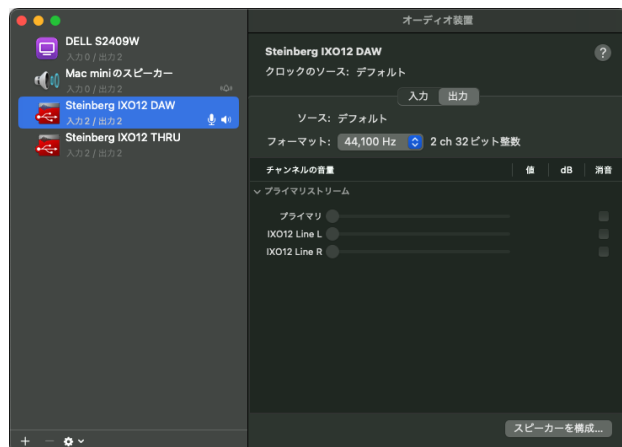
## About 画面

オーディオドライバのバージョンと著作権情報を表示します。



## サンプリング周波数の切り替え

[Audio MIDI 設定] で切り替えます。[アプリケーション] → [ユーティリティ] → [Audio MIDI 設定] を開き、[フォーマット] でサンプリング周波数を切り替えます。

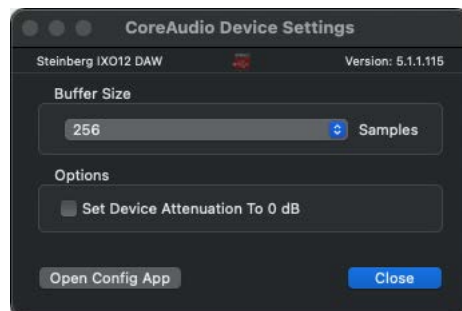
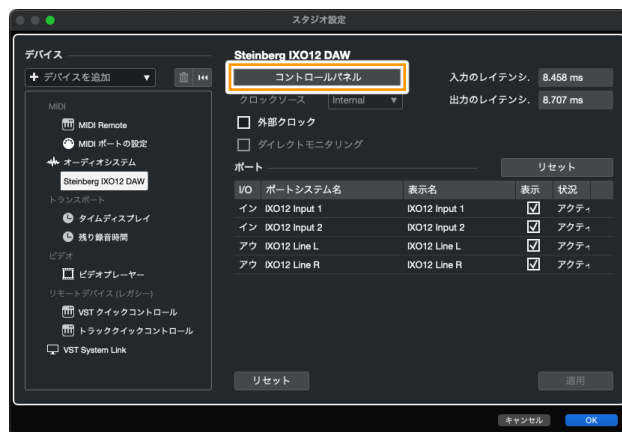


## バッファサイズの切り替え

各アプリケーション (DAW ソフトウェアなど) の設定画面で切り替えます。

Cubase シリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] を開き、画面左メニューの [Steinberg IXO\*\* DAW] にある [コントロールパネル] をクリックして開く「CoreAudio Device Settings」画面で、バッファサイズを切り替えます。(\*\* には 22 または 12 が入ります。)

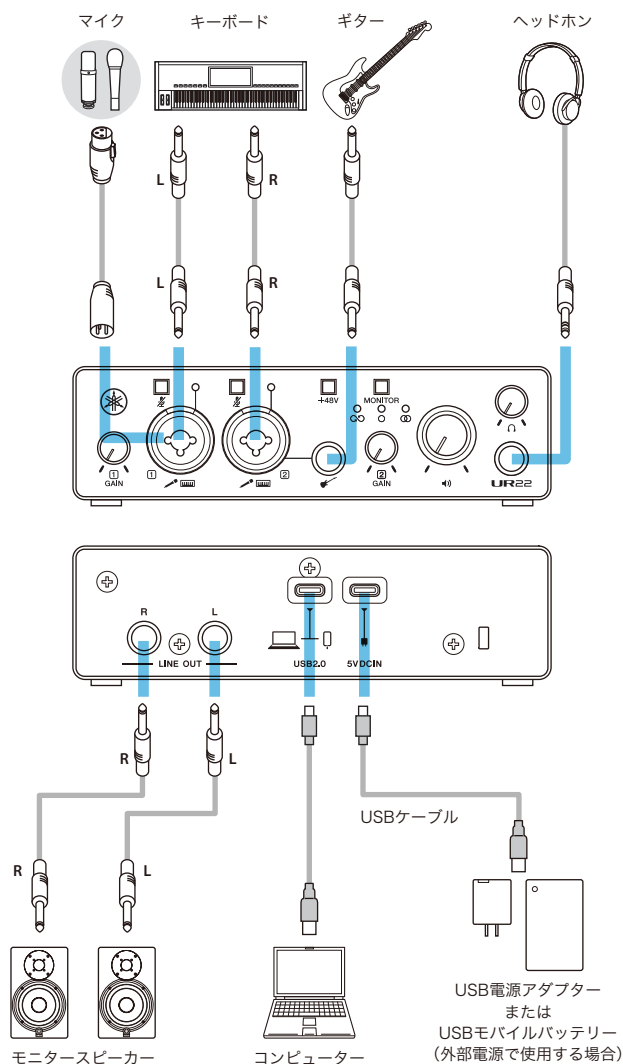
設定画面の開き方は、アプリケーションによって異なります。



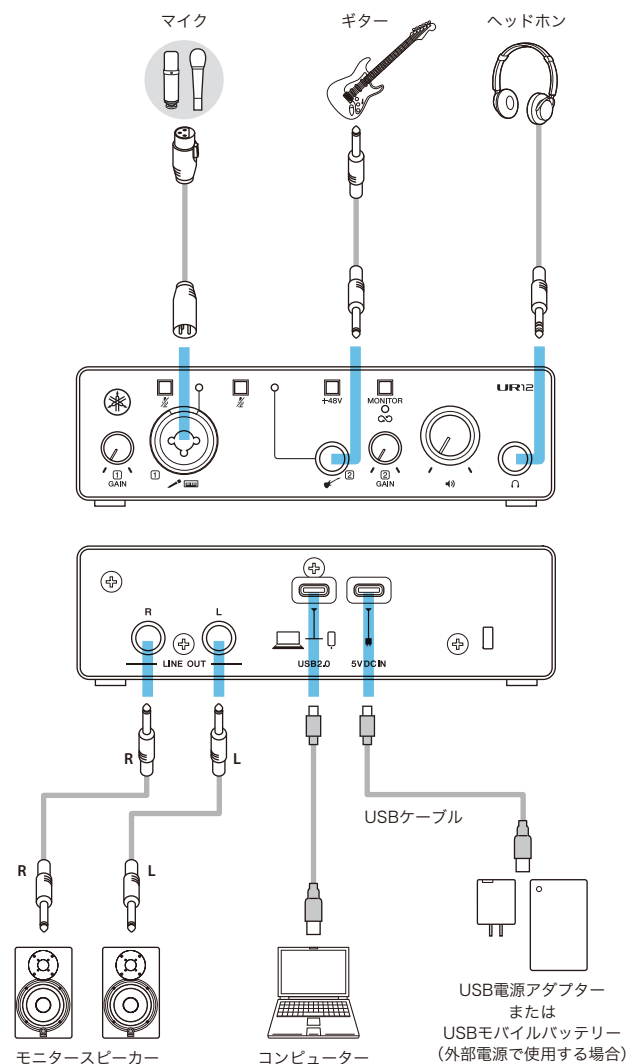
# コンピューターで使う

## 接続例

### UR22MK3



### UR12MK3



### NOTE

- コンピューターとの接続には、付属の USB 2.0 ケーブル (Type-C to Type-A) をご使用ください。
- USB A コネクタのないコンピューターの場合は市販の USB C to USB C ケーブルをご使用ください。
- USB ハブは使わず、直接接続してください。
- USB 電源アダプター (市販品)、USB モバイルバッテリー (市販品) との接続に関しては、UR22MK3 UR12MK3 セットアップガイドをご参照ください。

### NOTE

UR22MK3 の場合、ギター [🎸] 入力端子にケーブルが接続されているとき、[MIC/LINE 2] 入力端子の入力信号はキャンセルされます。

# コンピューターの設定

はじめに、本製品をコンピューターに認識させるドライバー「Yamaha Steinberg USB Driver」をヤマハウェブサイトからダウンロードしてインストールします。

UR22MK3

<https://www.yamaha.com/2/ur22mk3/>

UR12MK3

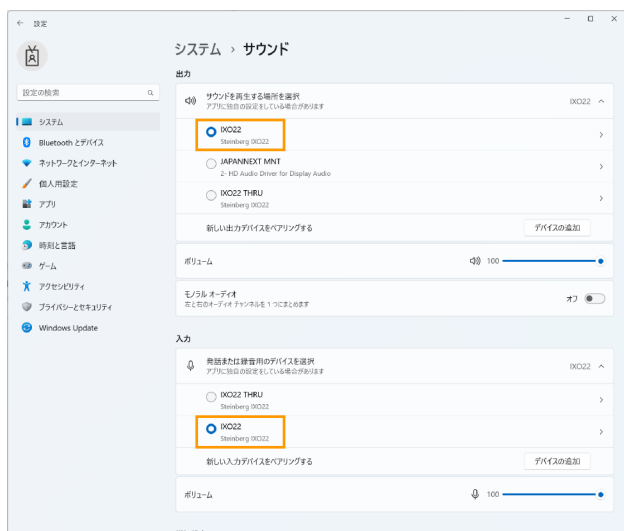
<https://www.yamaha.com/2/ur12mk3/>

## NOTE

インストール手順については、ダウンロードした圧縮ファイルの中にあるインストールガイドをご参照ください。対応 OS については、ダウンロードした圧縮ファイルの中にあるリリースノートをご参照ください。

## ■ Windows

1. 「タスクバー」から「検索」を開きます。  
開き方の手順はコンピューターの設定によって異なる場合があります。
2. 「検索」画面上で「サウンドの設定」と入力し、表示された「サウンドの設定」を選択します。



画面は Windows11 の例です。

出力に [IXO22 (Steinberg IXO22)] または [IXO12 (Steinberg IXO12)] を選択します。

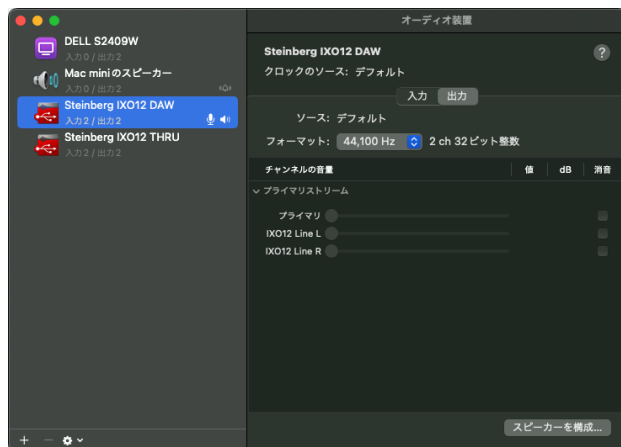
入力に [IXO22 (Steinberg IXO22)] または [IXO12 (Steinberg IXO12)] を選択します。

## NOTE

- 出力に [IXO22 THRU (Steinberg IXO22)] または [IXO12 THRU (Steinberg IXO12)] は選択しないでください。選択しても本体にオーディオは出力されません。
- 入力に [IXO22 THRU (Steinberg IXO22)] または [IXO12 THRU (Steinberg IXO12)] は選択しないでください。IXO\*\* THRU はコンピューターのアプリケーション間でのオーディオ信号の受け渡しなどのユースケースにご使用ください。

## ■ Mac

1. 「Finder」→「移動」→「アプリケーション」→「ユーティリティ」→「AudioMIDI 設定」を開きます。
2. オーディオ装置の画面左側のリストから [Steinberg IXO22 DAW] または [Steinberg IXO12 DAW] を選びます。  
オーディオ装置画面が表示されていない場合は、メニューの「ウィンドウ」→「オーディオ装置を表示」を選ぶと表示されます。
3. 画面左下の [v] をクリックして「このサウンド出力装置を使用」を選びます。
4. 同様に「このサウンド入力装置を使用」を選びます。  
手順 3 と手順 4 が完了すると、リストの [Steinberg IXO22 DAW] または [Steinberg IXO12 DAW] の右下にマイクとスピーカーのアイコンが表示されます。



## NOTE

- 入力出力装置に [Steinberg IXO22 THRU] または [Steinberg IXO12 THRU] は選択しないでください。
- IXO\*\* THRU はコンピューターのアプリケーション間でのオーディオ信号の受け渡しなどのユースケースにご使用ください。

# DAW を使って音楽制作を行う

## ■ DAW ソフトウェアのオーディオ設定をする

### Cubase シリーズ

本製品には Cubase AI のライセンスが付属しています。Cubase AI はコンピューターで音声の録音、再生、編集ができる音楽制作用の DAW ソフトウェアです。事前に次のページをご参照の上、ダウンロードやライセンスのアクティベーションをお済ませください。

<https://www.yamaha.com/2/ur-software-1/>

### NOTE

ライセンスのアクティベーションには、ダウンロードアクセスコード (Download access code) が必要です。付属の Cubase AI License Card (紙) に記載されています。

Cubase AI のマニュアルは、次の URL からご検索ください。

<https://steinberg.help/ja/>

1. DAW ソフトウェアが起動している場合は、終了します。
2. 付属の USB ケーブルを使って、本体にコンピューターを接続します。
3. Cubase シリーズを起動します。
4. 起動中に [オーディオドライバの設定] 画面が表示されたときは、以下のように設定します。

#### Windows

[Yamaha Steinberg USB ASIO] を選択して、[OK] をクリックします。

#### Mac

[Steinberg IXO22 DAW] または [Steinberg IXO12 DAW] を選択して、[OK] をクリックします。

5. [Steinberg Hub] 画面が表示されたら、[その他] の中にある [Empty] を選んで、[作成] をクリックします。
6. 手順 4 で [オーディオドライバの設定] 画面が表示されなかった場合は、[スタジオ] → [スタジオ設定...] → [オーディオシステム] の [ASIO ドライバー] で以下のように設定します。

#### Windows

[Yamaha Steinberg USB ASIO] を選択して、[OK] をクリックします。

#### Mac

[Steinberg IXO22 DAW] または [Steinberg IXO12 DAW] を選択して、[OK] をクリックします。

7. [スタジオ] → [オーディオコネクション...] → [入力] で、オーディオデバイスを以下のように設定します。

#### Windows

[Yamaha Steinberg USB ASIO] を選択します。

#### Mac

[Steinberg IXO22 DAW] または、[Steinberg IXO12 DAW] を選択します。

8. [スタジオ] → [オーディオコネクション...] → [出力] も、手順 7 と同様に設定します。

以上で、設定は完了です。

Cubase シリーズの詳しい使い方は、Cubase シリーズの取扱説明書をお読みください。

## Cubase シリーズ以外の DAW ソフトウェア

1. DAW ソフトウェアが起動している場合は、終了します。
2. 付属の USB ケーブルを使って、本体にコンピューターを接続します。
3. DAW ソフトウェアを起動します。
4. オーディオインターフェースを設定する画面を開きます。
5. (Windows のみ) DAW ソフトウェアが使用するドライバを、ASIO に設定します。
6. ASIO ドライバー (Windows) またはオーディオインターフェース (Mac) を以下のように設定します。

#### Windows

ASIO ドライバーを [Yamaha Steinberg USB ASIO] に設定します。

#### Mac

使用するオーディオインターフェースを [Steinberg IXO22 DAW] または [Steinberg IXO12 DAW] に設定します。

以上で、設定は完了です。

## ■ 録音 / 再生する

マイクを使った録音 / 再生の方法です。接続例 (10 ページ) に従って、[MIC/LINE 1] 入力端子にマイクを接続します。コンデンサーマイクを使用するときは、ファンタム電源をオンにしてください。

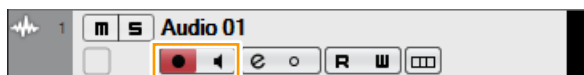
また、以下は工場出荷時の本体設定 (ループバック機能オフ、ダイレクトモニター機能オン (MONO)) での説明です。

### Cubase シリーズ

1. Cubase シリーズを起動し、[Steinberg Hub] 画面を表示します。
2. [その他] 中にある [Empty] を選んで、[作成] をクリックします。
3. プロジェクト画面で、[プロジェクト] → [トラックを追加] → [Audio] をクリックし、[トラックを追加] を表示します。
4. [オーディオ入力] を選び、[構成] を [モノラル]、[名前] を入力し、[数] を [1] として、[トラックを追加] をクリックし、新規の Audio トラックを 1 つ作成します。



5. 追加されたオーディオトラックの [録音可能] がオン (点灯) に、[モニタリング] がオフ (消灯) になっていることを確かめます。



#### NOTE

本体のダイレクトモニター機能を使わず、Cubase シリーズを通した音をモニターしながら録音をする場合は、[モニタリング] をオン (点灯) にしてください。

6. マイクで音声を入力しながら、本体の [INPUT 1 GAIN] ノブで入力信号レベルを調節します。
7. マイクで音声を入力しながら、本体の PHONES [∩] レベルノブでヘッドホンの出力信号レベルを調節します (UR22MK3)。UR12MK3 の場合は、OUTPUT [⦿] レベルノブで調整します。

8. [○] をクリックして録音を始めます。



9. 録音が終わったら、[□] をクリックして停止します。



10. オーディオトラックの [モニタリング] をオフ (消灯) にします。
11. ルーラーをクリックして、再生を開始したい位置にプロジェクトカーソルを移動します。



12. [▷] をクリックして再生し、録音した音を聴きます。モニタースピーカーで音を聴くときは、本体の OUTPUT [⦿] レベルノブで出力信号レベルを調節します。



以上で、録音 / 再生の操作は完了です。

### Cubase シリーズ以外の DAW ソフトウェア

1. DAW ソフトウェアを起動します。
2. マイクで音声を入力しながら、本体の [INPUT 1 GAIN] ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。
3. マイクで音声を入力しながら、本体の PHONES [∩] レベルノブでヘッドホンの出力信号レベルを調節します (UR22MK3)。UR12MK3 の場合は、OUTPUT [⦿] レベルノブで調整します。
4. DAW ソフトウェアで、録音を開始します。
5. 録音が終わったら、停止します。
6. 録音した部分を再生して、音を確認します。

DAW ソフトウェアの詳しい使い方は、DAW ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

## ライブ配信を行う

コンピューター内のゲームの実況や動画 / 音楽ソースを流しながらの雑談など、本体に接続したマイクを使った配信の方法です。接続例 (10 ページ) に従って、[MIC/LINE 1] 入力端子にマイクを接続します。コンデンサーマイクを使用するときは、ファンタム電源をオンにしてください。

1. 本体の [MONITOR] スイッチを操作してループバック機能をオンに、ダイレクトモニター機能をオン (MONO) に設定してください。

### HINT

ループバックとはインターネットの映像配信などに便利な機能です。本体の入力端子に入力されているオーディオ信号 (ギター、マイクなど) と、コンピューター内で使用中のソフトウェアから再生されているオーディオ信号を本体内でミックスし、コンピューターに戻します。

### NOTE

ループバック機能を使用するときは、DAW ソフトウェアのモニター機能をオフにしてください。DAW ソフトウェア経由で、本体からの入力信号をモニターしているときにループバック機能をオンにすると、大きなノイズが発生します。これは、本体と DAW ソフトウェアの間でオーディオ信号の無限ループが形成されるからです。

2. マイクで音声を入力しながら、本体の [INPUT 1 GAIN] ノブで入力信号レベルを調節します。
3. マイクで音声を入力しながら、本体の PHONES [∩] レベルノブでヘッドホンの出力信号レベルを調節します (UR22MK3)。UR12MK3 の場合は、OUTPUT [⚡] レベルノブで調整します。

### HINT

コンピューターのソフトウェアの再生レベルを調節してマイクとの音量バランスをとってください。

4. 配信用ソフトウェアを起動します。
5. オーディオインターフェースを設定する画面を開きます。

### Windows

使用するオーディオインターフェースを [IXO22 (Steinberg IXO22)] または [IXO12 (Steinberg IXO12)] に設定します。

### Mac

使用するオーディオインターフェースを [Steinberg IXO22 DAW] または [Steinberg IXO12 DAW] に設定します。

6. 配信を開始します。
7. ライブ配信中に離席する場合などは、[🔇 (ミュート)] スイッチをオン (点灯) にしてマイクの音が配信に流れないようにします。

## ■ OBS を使った配信方法 (基本)

ここでは配信ソフトウェアの例として OBS を使った配信方法を説明します。OBS のダウンロード、およびインストールについては、OBS の公式ホームページをご参照ください。

1〜3は前述のとおりなので省略します。

4. OBS を起動します。
5. 「ファイル」から「設定」画面を開きます。
6. 左側のナビゲーションメニューから「音声」を選択します。
7. 「グローバル音声デバイス」にある「デスクトップ音声」の設定を「既定」または「無効」にします。
8. 同様に「グローバル音声デバイス」にある「マイク音声」の設定を以下のように設定します。

### Windows

[IXO22 (Steinberg IXO22)] または [IXO12 (Steinberg IXO12)] に設定します。

### Mac

[Steinberg IXO22 DAW] または [Steinberg IXO12 DAW] に設定します。

9. 左側のナビゲーションメニューから「配信」を選択します。
10. 配信するサービスを選択します。必要に応じて、サービスから提供されるストリームキーを入力します。
11. 「設定」画面を閉じます。
12. 配信を開始します。



## ■ OBS を使った配信方法 (応用)

UR22MK3、UR12MK3 はコンピューターにインストールしたYamaha Steinberg USB Driverの機能との組み合わせで、コンピューターからのオーディオ出力信号をそのまま別のオーディオ入力信号として使用するUSB THRU機能を搭載しています。ここではその機能を使い、マイクの音量とコンピューター内で使用中のソフトウェアから再生されているオーディオ信号を、OBS内の音声ミキサーでバランスをとって出力する配信方法について説明します。

1. 本体の [MONITOR] スイッチを操作してループバック機能をオフに、ダイレクトモニター機能をオンに設定してください。
2. マイクで音声を入力しながら、本体の [INPUT 1 GAIN] ノブで入力信号レベルを調節します。
3. マイクで音声を入力しながら、本体の PHONES [∩] レベルノブでヘッドホンの出力信号レベルを調節します (UR22MK3)。UR12MK3 の場合は、OUTPUT [⚡] レベルノブで調整します。
4. OBS を起動します。
5. 「ファイル」 から 「設定」 画面を開きます。
6. 左側のナビゲーションメニューから 「音声」 を選択します。
7. 「グローバル音声デバイス」にある「デスクトップ音声」の設定を「既定」または「無効」にします。
8. 同様に「グローバル音声デバイス」にある「マイク音声」の設定を以下のように設定します。

### Windows

[IXO22 (Steinberg IXO22)] または [IXO12 (Steinberg IXO12)] に設定します。

### Mac

[Steinberg IXO22 DAW] または [Steinberg IXO12 DAW] に設定します。

9. 同様に「グローバル音声デバイス」にある「マイク音声 2」の設定を以下のように設定します。

### Windows

[IXO22 THRU (Steinberg IXO22)] または [IXO12 THRU (Steinberg IXO12)] に設定します。

### Mac

[Steinberg IXO22 THRU] または [Steinberg IXO12 THRU] に設定します。

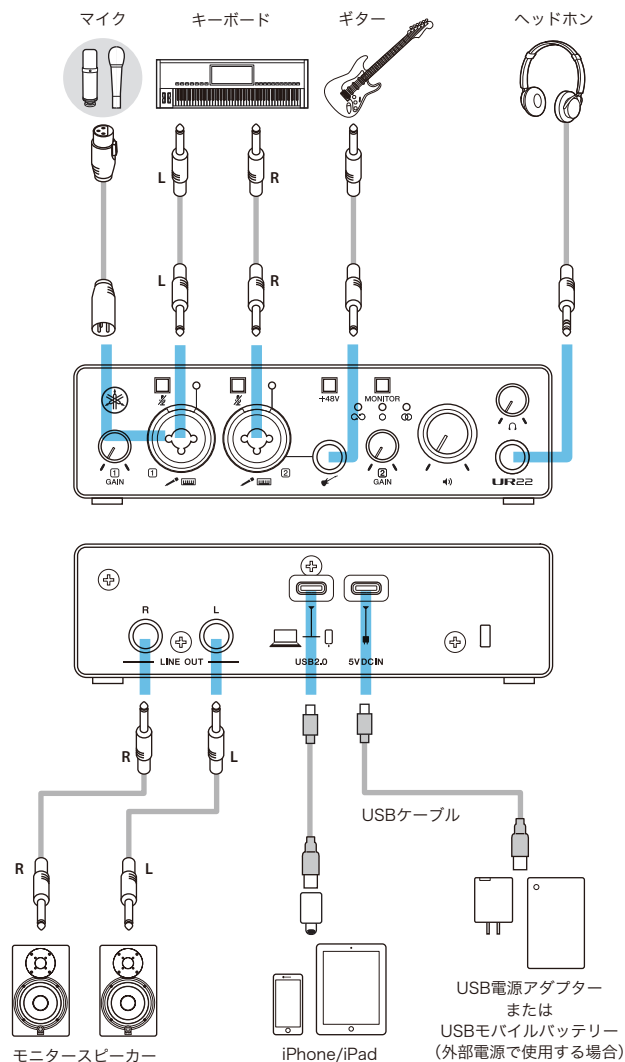
10. 左側のナビゲーションメニューから「配信」を選択します。

11. 配信するサービスを選択します。必要に応じて、サービスから提供されるストリームキーを入力します。
12. 「設定」画面を閉じます。
13. 音声ミキサー画面左下のプロパティ (設定) アイコンをクリックし、「オーディオの詳細プロパティ」画面を開きます。
14. マイクのモノラルにチェックを入れます。チェックが入っていないと、マイクの音声は左チャンネルしか配信されません (マイク 2 にはチェックを入れないでください)。
15. 「オーディオの詳細プロパティ」画面を閉じます。
16. 音声ミキサー画面のスライダーを操作して、音量バランスを調整してください。
17. 配信を開始します。

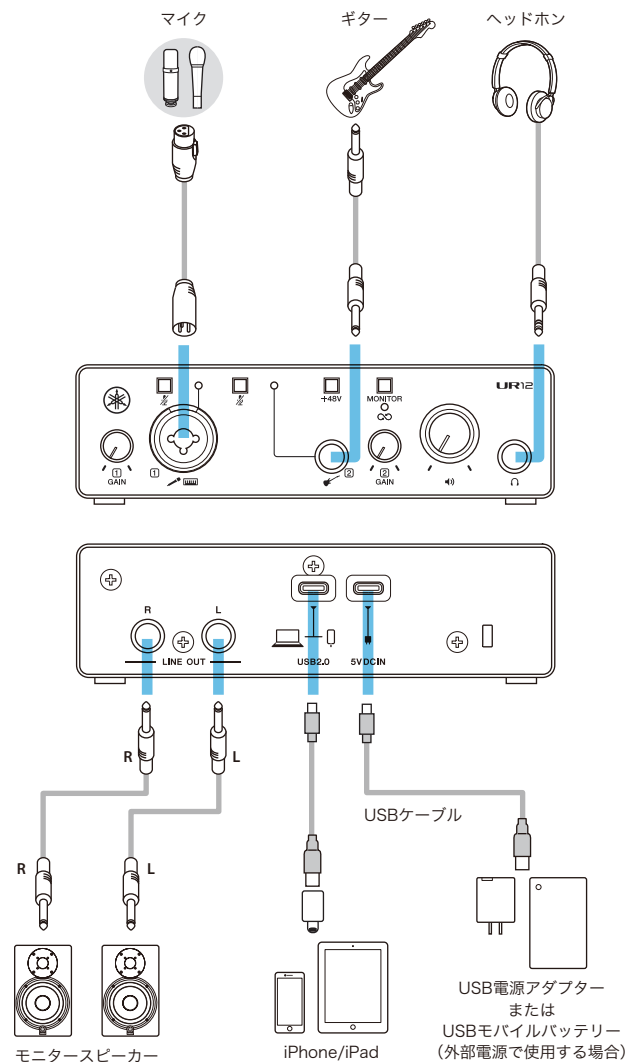
# iPhone/iPad で使う

## 接続例

### UR22MK3



### UR12MK3



### NOTE

- Lightning 端子のある iPhone/iPad との接続には、付属の USB 2.0 ケーブル (Type-C to Type-A) と Apple 社製 Lightning-USB3 カメラアダプタをご使用ください。iPhone/iPad 付属の USB-C - Lightning ケーブルはご使用できません。Lightning 端子のある iPhone/iPad をご使用になる場合は、必ず USB 電源アダプター (市販品) または USB モバイルバッテリー (市販品) から [5V DC IN] 端子に電源を供給してください。
- USB Type-C 端子のある iPad とは、市販の USB C to USB C ケーブルを使って直接接続してください。iPad 本体のバッテリー残量によっては使用可能時間が制限されるため、USB 電源アダプター (市販品) または USB モバイルバッテリー (市販品) から [5V DC IN] 端子に電源を供給することをお勧めします。また、付属の USB 2.0 ケーブル (Type-C to Type-A) と Apple 社製 USB-C Digital AV Multiport アダプタを使って接続する方法もあります。その場合は、必ず USB 電源アダプター (市販品) または USB モバイルバッテリー (市販品) から [5V DC IN] 端子に電源を供給してください。
- USB 電源アダプター (市販品)、USB モバイルバッテリー (市販品) との接続に関しては、UR22MK3 UR12MK3 セットアップガイドをご参照ください。

### NOTE

UR22MK3 の場合、ギター [🎸] 入力端子にケーブルが接続されているとき、[MIC/LINE 2] 入力端子の入力信号はキャンセルされます。

接続が完了すると、本製品が自動的に iPad/ iPhone で認識されます。

iPad/ iPhone の設定は必要ありません。

# DAW を使って音楽制作を行う

## Cubasis シリーズ

本製品には Cubasis LE がバンドルされています。

Cubasis LE と本製品を組み合わせ、音声の録音や編集ができます。Cubasis LE は、モバイル DAW、Cubasis のライト版です。Cubasis と同様に、iPad/iPhone から音声の録音、再生、編集ができる音楽制作アプリです。

App Store から「Cubasis LE」を検索し、ダウンロードしてお使いください。Cubasis LE をインストールした iPad/iPhone と本製品を接続すると、機能制限が解除（アンロック）されます。

Cubasis LE の詳細は、次の Steinberg ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.steinberg.net/ja/cubasis/le/>

## ■ 録音 / 再生する

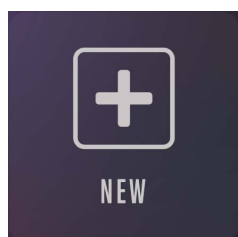
マイクを使った録音 / 再生の方法です。接続例（16 ページ）に従って、[MIC/LINE 1] 入力端子にマイクを接続します。コンデンサーマイクを使用するときは、ファンタム電源をオンにしてください。

また、以下は工場出荷時の本体設定（ループバック機能オフ、ダイレクトモニター機能オン（MONO））での説明です。

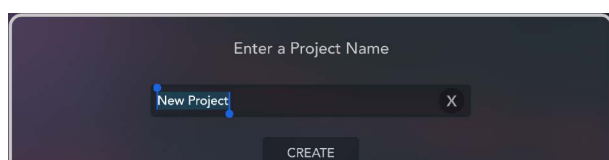
以下、Cubasis LE 3 を使った録音 / 再生について説明します。

1. Cubasis LE 3 を起動します。

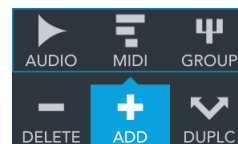
2. 画面左の [NEW] をタップします。



3. プロジェクト名を入力し、[CREATE] をタップします。

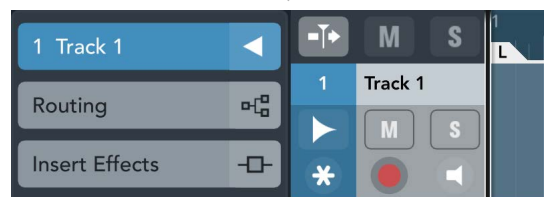
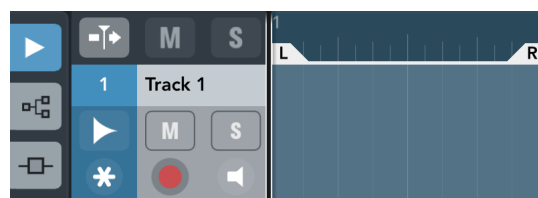


4. 画面左側にある [+ ADD] をタップし、次に [AUDIO] をタップして Audio Track を追加します。

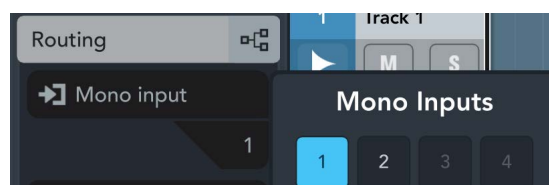


あらかじめ MIDIトラックと Audio Track がひとつずつ用意されていますので、必要に応じて [-DELETE] をタップして削除してください。

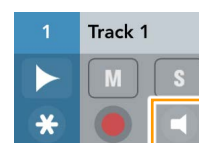
5. 画面左横のタブにある [▶] をタップして、Track インспекターを表示します。



6. [🔊] をタップして詳細画面を表示し、数値をタップして楽器やマイクを接続している入力端子に合わせます。



7. モニタリングがオフ（消灯）になっていることを確認します。



本体のダイレクトモニター機能を使わず、Cubasis LE 3 を通した音をモニターしながら録音をする場合は、モニタリングをオン（点灯）にしてください。

8. マイクで音声を入力しながら、本体の [INPUT 1 GAIN] ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。
9. マイクで音声を入力しながら、本体の PHONES [∩] レベルノブでヘッドホンの出力信号レベルを調節します (UR22MK3)。UR12MK3 の場合は、OUTPUT [⌘] レベルノブで調整します。
10. [○] をタップして、録音を開始します。



11. 録音が終わったら、[▷] をタップして停止します。



12. ルーラーをドラッグして、再生を開始したい位置にプロジェクトカーソルを移動します。



[◀] をタップすることで、録音を開始した位置に戻ることができます。

13. [▷] をタップして再生し、録音した音を聴きます。

## ライブ配信を行う

iPhone/iPad 内のゲームの実況や動画 / 音楽ソースを再生しながらの雑談など、本体に接続したマイクを使った配信の方法です。接続例 (16 ページ) に従って、[MIC/LINE 1] 入力端子にマイクを接続します。コンデンサーマイクを使用するときは、ファンタム電源をオンにしてください。

1. 本体の [MONITOR] スイッチを操作してループバック機能をオンに、ダイレクトモニター機能をオン (MONO) に設定してください。

### HINT




ループバックとはインターネットの映像配信などに便利な機能です。本体の入力端子に入力されているオーディオ信号 (ギター、マイクなど) と、iPhone/iPad 内で使用中のソフトウェアから再生されているオーディオ信号を本体内でミックスし、コンピューターに戻します。

### NOTE

ループバック機能を使用するときは、DAW ソフトウェアのモニター機能をオフにしてください。DAW ソフトウェア経由で、本体からの入力信号をモニターしているときにループバック機能をオンにすると、大きなノイズが発生します。これは、本体と DAW ソフトウェアの間でオーディオ信号の無限ループが形成されるからです。

2. マイクで音声を入力しながら、本体の [INPUT 1 GAIN] ノブで入力信号レベルを調節します。
3. マイクで音声を入力しながら、本体の PHONES [∩] レベルノブでヘッドホンの出力信号レベルを調節します (UR22MK3)。UR12MK3 の場合は、OUTPUT [⌘] レベルノブで調整します。
4. 配信アプリを立ち上げ、配信を開始します。
5. ライブ配信中に離席する場合などは、[⌵ (ミュート)] スイッチをオン (点灯) にしてマイクの音が配信に流れないようにします。

## 困ったときは

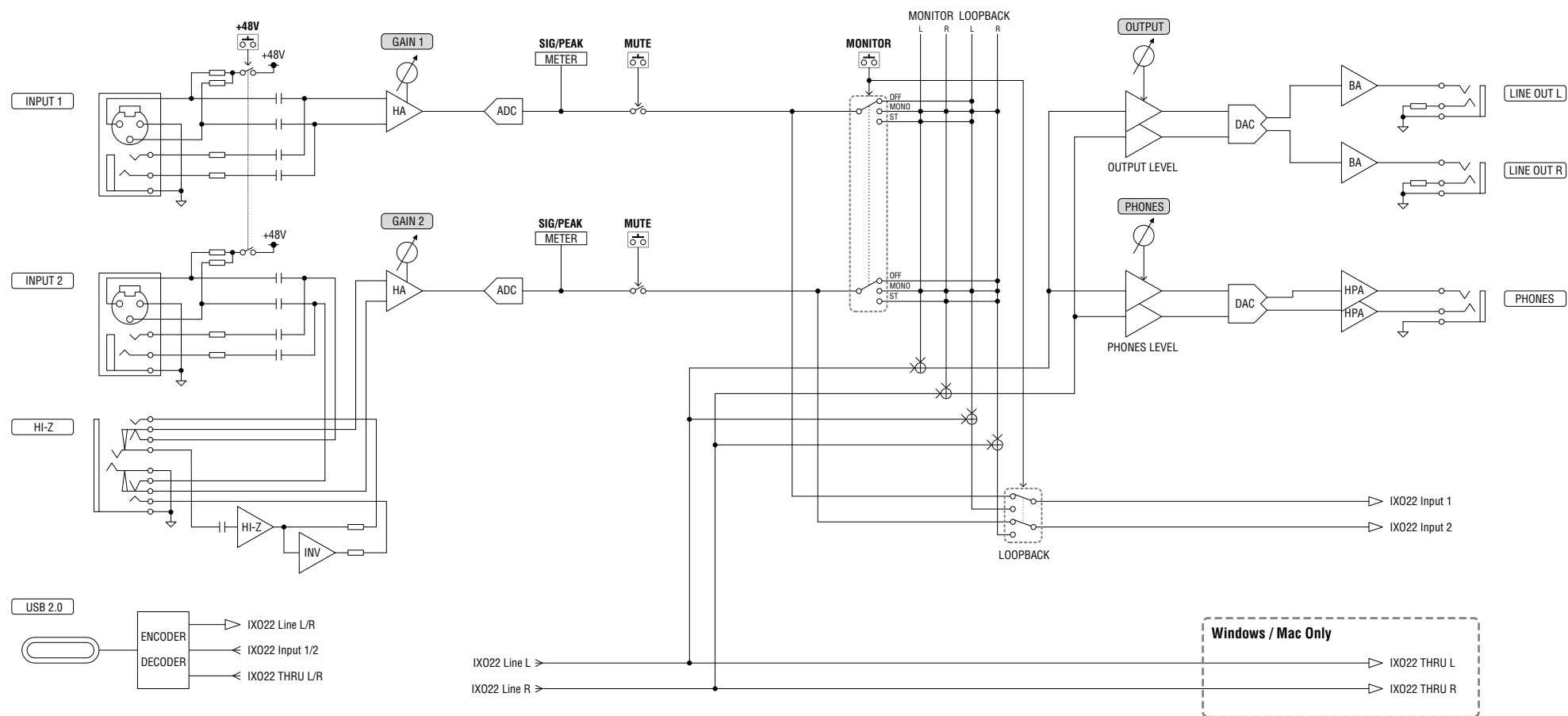
電源インジケータが点灯しない	<p>電源供給がない場合は点灯しません。</p> <p>バスパワーで動作させるときは、[USB 2.0] 端子に接続したコンピューターの電源が入っているかどうか確認してください。</p> <p>また Lightning 端子のある iPhone/iPad や、USB Type-C 端子のある iPad を Apple 社製 USB-C Digital AV Multiport アダプタを使って接続する場合は、必ず USB 電源アダプター（市販品）または USB モバイルバッテリー（市販品）から [5V DC IN] 端子に電源を供給してください。</p>
電源インジケータが点滅する	<p>供給されている電源の電圧が低い場合は電源インジケータが点滅します。バスパワーで動作させている場合は、接続しているコンピューターが故障していないかご確認ください。[5V DC IN] 端子に電源を供給している場合は、規格に適合した電源供給ができる USB 電源アダプターや USB モバイルバッテリーをお使いください。</p> <p>出力電圧 DC 5 V 出力電流 0.5 A 以上</p>
（暗い場所で使用しているのに）インジケータが暗い	<p>故障ではありません。</p> <p>接続しているコンピューターによっては、シャットダウン / スリープ状態でも USB 端子から電源を供給し続けるものがあります。そのようなコンピューターと接続してバスパワーで動作させているときにコンピューターがシャットダウン / スリープ中で USB 通信が途切れている場合、本体のインジケータは暗く点灯する仕様になっています。</p>
音が出ない	<p>マイク、電子楽器、ギターの設定は正しいですか？</p> <p>機器のスイッチがオフになっていたり、ボリュームが絞られていたりしていないかご確認ください。</p>
	<p>コンデンサマイクをご使用の場合は [+48V] スwitchをオンにしてください。</p>
	<p>[INPUT 1, 2  (ミュート) ] スwitchがオン (点灯) になっていませんか？</p>
	<p>[MONITOR] スwitchはオン (点灯) になっていますか？</p> <p>マイク、電子楽器、ギターなどの入力音を（コンピューターのアプリを通さず）直接モニターする場合は、フロントパネルの [MONITOR] スwitchを操作して、ダイレクトモニター機能をオンにしてください (<a href="#">6 ページ</a>)。</p>
	<p>OUTPUT レベル [] ノブ、PHONES [] レベルノブ (UR22MK3 のみ) の設定は正しいですか？</p> <p>最小値 (絞り切り) になっている場合音は出ません。</p>
	<p>コンピューターの設定は正しいですか？</p> <p>「コンピューターの設定」(<a href="#">11 ページ</a>) を参照して、コンピューター側の設定を確認してください。</p>
	<p>使用しているソフトウェアのオーディオ設定は正しいですか？</p> <p>「DAW ソフトウェアのオーディオ設定をする」(<a href="#">12 ページ</a>)、<a href="#">「ライブ配信を行う」</a> (<a href="#">14 ページ</a>) を参照してソフトウェアのオーディオ設定を確認してください。</p>
	<p>iPhone/iPad との接続は正しいですか？</p> <p>「接続例」(<a href="#">16 ページ</a>) を参照して、iPhone/iPad との接続を確認してください。また iPhone/iPad 付属の USB-C - Lightning ケーブルはご使用できません。iPhone/iPad のソフトウェアの中には、出力音量が iPhone/iPad 本体の音量設定 / 消音モード設定に依存するものがありますのでご注意ください。</p>
	<p>本製品と USB オーディオの送受信を行っているすべてのソフトウェアのサンプリング周波数の設定はそろっていますか？</p> <p>Windows は「Yamaha Steinberg USB Control Panel」、Mac の場合は「Audio MIDI 設定」のサンプリング周波数の設定にそろえてください。</p>

音が正常に鳴らない (ノイズ、音切れ、歪み、ハウリング)	<p>Yamaha Steinberg USB Driver はインストールしましたか？</p> <p>コンピューターで使用する場合、Yamaha Steinberg USB Driver をインストールしてください。</p>
	<p>バッファサイズが小さすぎませんか？</p> <p>「Yamaha Steinberg USB Driver (Windows)」(8 ページ) または「バッファサイズの切り替え (Mac)」(9 ページ) を参照して、バッファサイズを確認してください。</p>
	<p>お使いのコンピューターは、動作環境を満たしていますか？</p> <p>動作環境を確認してください。最新の情報については、以下のヤマハウェブサイトをご参照ください。</p> <p>UR22MK3  <a href="https://www.yamaha.com/2/ur22mk3/">https://www.yamaha.com/2/ur22mk3/</a></p> <p>UR12MK3  <a href="https://www.yamaha.com/2/ur12mk3/">https://www.yamaha.com/2/ur12mk3/</a></p>
	<p>DAW ソフトウェア上で、たくさんのオーディオトラックを再生していませんか？</p> <p>お使いのコンピューターの性能によっては、たくさんのオーディオトラックを再生すると音が途切れることがあります。オーディオトラックを少なくして、音を確認してください。</p>
	<p>有線 / 無線 LAN などのネットワークアダプターが動作していませんか？</p> <p>ネットワークアダプターの動作を停止してみてください。ネットワークアダプターがノイズの原因になることがあります。</p>
	<p>ループバックの設定は適切ですか？</p> <p>ループバック機能を使わない場合、フロントパネルの [MONITOR] スイッチを操作してオフにしてください。また、ループバック機能がオンのきとは、本体と DAW ソフトウェアの間でオーディオ信号の無限ループが形成されるためオーディオトラックの [モニタリング] はオフにしてください。</p>
	<p>マイクをフォーン端子で接続していませんか？</p> <p>マイクは XLR 端子で接続してください。マイクをフォーン端子で接続すると、十分な音量が得られません。</p>
音が重なって聞こえる	<p>ダイレクトモニター機能がオンになっているとき、DAW のオーディオトラックの [モニタリング] がオンになっていると、直接音と DAW からの出力音が重なって聞こえます。どちらかをオフにしてください。</p>

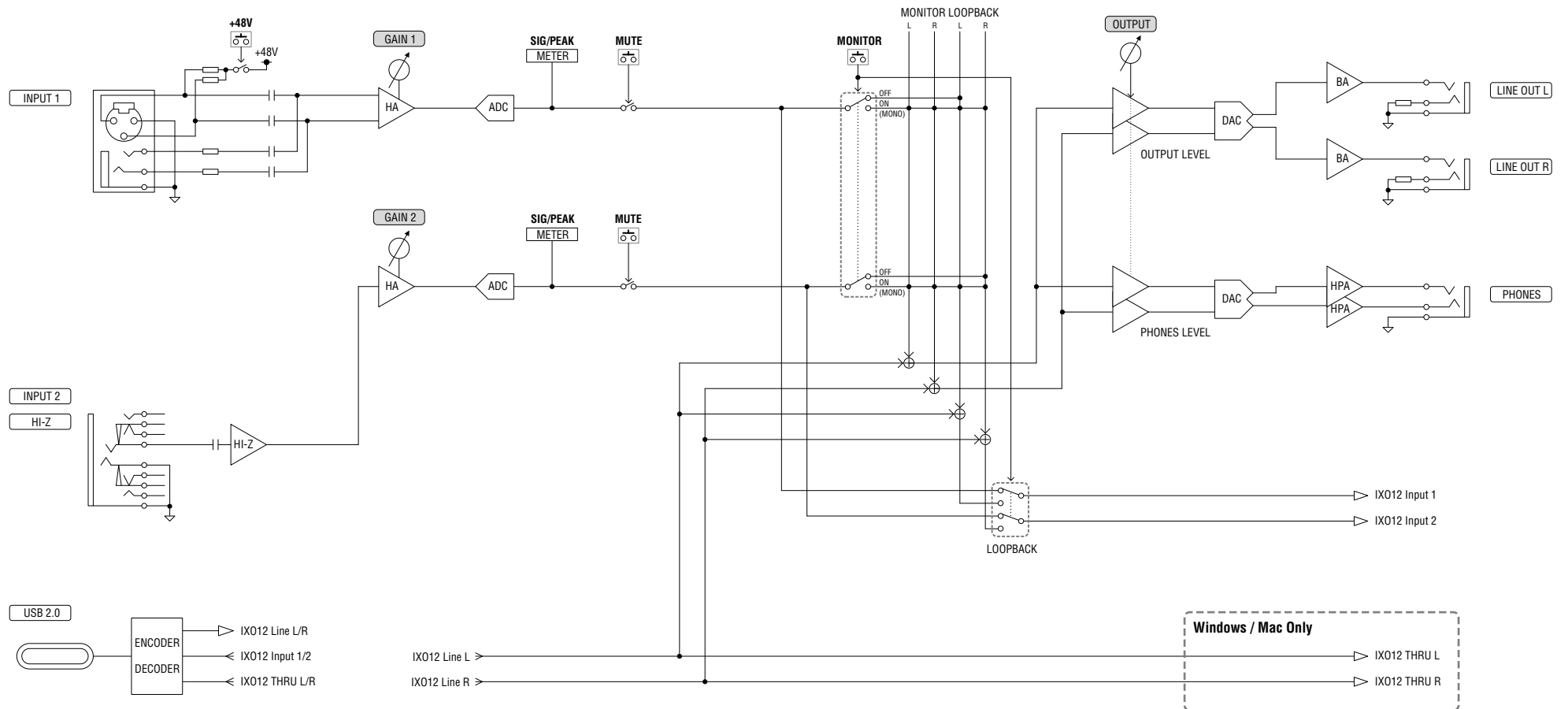


# ブロック図

## UR22MK3



# UR12MK3



# Software License and Copyrights

## The MIT License (MIT)

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

FreeRTOS Kernel V10.4.3

Copyright (C) 2020 Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.


<https://www.FreeRTOS.org>

<https://github.com/FreeRTOS>


# 技術仕様

0 dBu = 0.775 Vrms, 0 dBV = 1.0 Vrms です。

## UR22MK3

MIC INPUT 1/2 (バランス)	
周波数特性	+0.0/−0.3 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
ダイナミックレンジ	106 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.004%, 1 kHz, 20 kHz LPF
最大入力レベル	+6 dBu
入力インピーダンス	3 kΩ
Gain 範囲	+6 dB ~ +60 dB
入力換算ノイズ	−128 dBu, Rs: 150 Ω, Gain = Max., A-Weighted
LINE INPUT 1/2 (バランス)	
最大入力レベル	+24 dBu
入力インピーダンス	12 kΩ
Gain 範囲	−12 dB ~ +42 dB
HI-Z INPUT (INPUT2 アンバランス)	
最大入力レベル	+9.8 dBV
入力インピーダンス	1 MΩ
Gain 範囲	0 dB ~ +54 dB
LINE OUTPUT (インピーダンスバランス)	
周波数特性	+0.0/−0.3 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
ダイナミックレンジ	107 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.004%, 1 kHz, 20 kHz LPF
最大出力レベル	+12 dBu
出力インピーダンス	150 Ω
PHONES	
最大出力レベル	40 mW + 40 mW, 40 Ω
USB	
仕様	USB 2.0, 24-bit, 44.1 kHz/48 kHz/88.2 kHz/96 kHz/176.4 kHz/192 kHz
XLR INPUT	
極性	 1: グラウンド 2: ホット (+) 3: コールド (−)

# UR12MK3

MIC INPUT 1 (バランス)	
周波数特性	+0.0/−0.3 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
ダイナミックレンジ	106 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.004%, 1 kHz, 20 kHz LPF
最大入力レベル	+6 dBu
入力インピーダンス	3 kΩ
Gain 範囲	+6 dB ~ +60 dB
入力換算ノイズ	−128 dBu, Rs: 150 Ω, Gain = Max., A-Weighted
LINE INPUT 1 (バランス)	
最大入力レベル	+24 dBu
入力インピーダンス	12 kΩ
Gain 範囲	−12 dB ~ +42 dB
HI-Z INPUT (INPUT2 アンバランス)	
最大入力レベル	+9.8 dBV
入力インピーダンス	1 MΩ
Gain 範囲	0 dB ~ +39.5 dB
LINE OUTPUT (インピーダンスバランス)	
周波数特性	+0.0/−0.3 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
ダイナミックレンジ	107 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.004%, 1 kHz, 20 kHz LPF
最大出力レベル	+12 dBu
出力インピーダンス	150 Ω
PHONES	
最大出力レベル	40 mW + 40 mW, 40 Ω
USB	
仕様	USB 2.0, 24-bit, 44.1 kHz/48 kHz/88.2 kHz/96 kHz/176.4 kHz/192 kHz
XLR INPUT	
極性	 <div> 1: グラウンド  2: ホット (+)  3: コールド (−) </div>

# 一般仕様

電源条件	2.5 W (5 V DC, 0.5 A)
寸法	158 (W) × 47 (H) × 102 (D) mm
質量	450 g
動作環境温度	0 ~ 40°C
付属品	・ UR22MK3 UR12MK3 セットアップガイド (保証書付き) ・ Cubase AI License Card ・ Steinberg Plus License Card ・ USB 2.0 ケーブル (Type-C to Type-A, 1.5 m)

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

ヤマハグローバルサイト  
<https://www.yamaha.com/>  
ヤマハダウンロード  
<https://download.yamaha.com/>

© 2025 Yamaha Corporation  
2025年9月発行  
MW-A0